

令和元年度10月 訪問リハビリテーション研修会 報告

報告者 永原 真一

今年度の訪問リハビリテーション研修会は10月5・6日（金・土）の日程で、例年通り2日間、全8講義（訪問リハ制度論、連携論、技術論、住環境論、リスク管理論、生活コーディネート論）の研修会を開催しました。

今回の協会会員の申し込みは30名弱と少なかったのですが、今年度より一部の講義を同時開催している「快護生活フェス！福祉機器展会&セミナー」の公開講座としたところ、設定した定員を越すほどの多くの参加をいただきました。

訪問リハ連携論の講義は、地域ケア会議の参加など在宅支援に関わるサービスでは、多職種や地域住民の方とコミュニケーションを図る場が増えてきていることもあり、参加者の真剣な講義への取り組み姿勢がみられていました。また、住環境論の講義では、福祉用具の活用法として同会場内の福祉機器展示会場にて移乗用リフトのデモンストレーションも行われました。展示会場では最新の福祉用具に触れ、訪問リハビリテーションに必要不可欠である福祉用具への知識を深めてもらう、よい機会となったと思われます。

アンケートは、訪問リハビリテーションの制度も複雑となってきていることから、訪問リハ制度論の講義時間を長く設けてほしいといったご意見などがありました。皆様からいただいたご意見を参考に、また次年度の研修会もよりよいものにしてまいりたいと思います。

次回は2月か3月にステップアップ研修を企画いたします。今後も当会の活動を、よろしくお願いいたします。

